

# ぱれっと

Palette

10

2022 October  
vol.266

## 特集 『営農振興計画』のあらまし

農を担う  
イチジク農家 木村 昇 さん  
福田地区……………10ページ

今月の折り込み

令和5年産 水稻種子予約注文書  
2022年10月号カタログショッピングチラシ

ほか

# FEATURE

— 今月の特集 —

# 『営農振興計画』のあらまし

営農振興計画は、令和4年度から令和6年度にかけて、当組合が組合員の皆さまとともに取り組むべき営農振興の基本方針と行動計画、営農センター別の重点実施事項と行動計画を示したものです。今月号では、営農振興計画のあらましをご紹介します。

## 管内の農業構造

まず始めに「営農振興計画」の基本方針を策定するにあたり参照した、農業センサスによる当JA管内の農業構造データを紹介します。

農業センサスとは、農林水産省が、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供するものを目的に、5年ごとに1回調査のことです。

表1 総農家数の推移

	総農家数	販売農家数	自給的農家数	自給的農家割合
平成22年	15,782	10,612	5,170	32.8%
平成27年	13,205	8,576	4,629	35.1%
令和2年	10,501	6,674	3,827	36.4%
増減 (H22→R2)	▲ 5,281 ▲ 33.5%	▲ 3,938 ▲ 37.1%	▲ 1,343 ▲ 26.0%	—
岡山県 (R2)	50,625	27,897	22,728	44.9%
県全体に占める割合 (R2)	20.7%	23.9%	16.8%	—

単位：戸

(2010年、2015年、2020年農林業センサス)

※農林業センサスにおける定義

- 「農家」：経営耕地面積が10㌥以上または年間農産物販売金額が15万円以上の世帯
- 「販売農家」：経営耕地面積が30㌥以上または年間農産物販売金額が50万円以上の農家
- 「自給的農家」：経営耕地面積が30㌥未満かつ年間農産物販売金額が50万円未満の農家

表2 経営耕地面積の推移

	経営耕地面積 (経営耕地のある経営体)			
	田	畑	樹園地	計
平成22年	12,097	900	488	13,485
	89.7%	6.7%	3.6%	100.0%
平成27年	11,360	764	455	12,579
	90.3%	6.1%	3.6%	100.0%
令和2年	10,376	759	392	11,527
	90.0%	6.6%	3.4%	100.0%
増減 (H22→R2)	▲ 1,721 ▲ 14.2%	▲ 141 ▲ 15.7%	▲ 96 ▲ 19.7%	▲ 1,958 ▲ 14.5%
岡山県 (R2)	30,540	4,615	1,619	36,774
県全体に占める割合 (R2)	34.0%	16.4%	24.2%	31.3%

単位：ha

(2010年、2015年、2020年農林業センサス)

当JA管内の農家数等の推移(表1)を見ると、総農家数は令和2年時点で10,501戸、そのうち販売農家は約64%の6,674戸で平成22年からの10年間で大きく減少していることが分かります。

続いて管内の経営耕地面積(経営耕地のある経営体)(表2)は令和2年時点で11,527㌥となつています。平成22年から令和2年の10年間の推移を見ると、経営耕地面積が14.5%(1,958㌥)減少しており、長期にわたり農地の荒廃、転用の傾向が続いていることが推測されます。

販売品販売高の推移(表3)については、現在当JAにおける農産物等の品目数は50品目を超え、農産物の総合的な供給産地となつています。令和3年度では約99億円の販売高となり、平成30年対比93.3%と減少傾向が続いています。近年の天候不順や気象災害による減収、また、コロナ禍の影響による食品流通・消費の変化など、種々の要因が原因として考えられます。



表3 販売品販売高の推移

単位：千円、%

品目	販売高				品目割合		伸び率 (R3/H30)
	H30	R1	R2	R3	H30	R3	
米	3,558,313	3,534,230	3,188,368	3,031,548	33.6	30.7	85.1
麦類	575,887	566,295	615,533	701,066	5.4	7.1	121.7
雑穀・大豆	14,365	12,418	14,290	14,442	0.1	0.1	100.5
野菜	2,856,384	2,766,325	2,689,902	2,338,545	27.0	23.7	81.8
果実	1,464,115	1,499,384	1,559,528	1,716,105	13.8	17.4	117.2
花卉・花木	125,160	127,596	117,091	124,319	1.2	1.2	99.3
畜産	206,409	168,452	150,605	190,169	2.0	1.9	92.1
直売所	1,486,966	1,322,106	1,479,831	1,471,639	14.0	14.9	98.9
その他	296,883	319,263	275,809	295,031	2.8	3.0	99.3
合計	10,584,482	10,316,069	10,090,957	9,882,864	100.0	100.0	93.3

(令和1~4年度総代会資料)

## SDGsへの取り組み

農業は食料生産を行う産業であり、一面では営農・流通に伴う環境負荷も発生します。そのため、SDGsの目標「2・飢餓をゼロに」や「13・気候変動に具体的な対策を」など、直接関わる目標もあり、そのための技術や仕組みの開発・改善、その選択など、取り組んでいくべき事項が考えられます。また、農業はその他の多くの目標にも関わっている部分があります。これらの目標を目指していくことで、農業・地域も持続的に発展していけるよう、関係者はもとより、消費者も含めて連携を深めていく必要があります。

今後、計画を進めていく上でSDGsを意識に置きながら取り組む目安にするため、今回の計画では、それぞれの項目に関わりのあると思われる目標のアイコンを表示しました。



JA岡山は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

JA大会で決議された「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大・県民による地産地消」、「地域の活性化」、「協同」のさらなる強化」を基本目標とし、農業者のニーズをもとに、これまでの営農振興計画の実践状況を踏まえて3つの基本方針を設定しています。

基本方針の「農畜産物の生産振興」、「販売戦略の強化と販売体制づくり」、「営農指導体制の充実」は農産物と担い手に関する農業・JAの永遠のテーマであり、継続した取り組みが求められる重要な課題です。基本方針に沿って重点実施事項と行動計画を策定し、実現に向けて具体的な取り組みを実践してまいります。

岡山県でも農林水産業の目指すべき方向として「21おかやま農林水産プラン」を基幹として本県農林水産物の強みを活かしたマーケティング戦略やブランドディングの推進、次代を担う農家の育成など攻めの農林水産業を支援する施策を展開しています。

いずれの課題も関係機関と連携・協力なくして解決できません。そのためにもJA職員自らが自己改革の意識を高め、内部の連帯意識と組合員の皆さまとの一体感を高め、営農振興計画の遂行と新たなJAづくりに邁進してまいります。



## 販売戦略の強化と販売体制づくり

### ● 農畜産物販売高103億円の確保

米 麦 3,468百万円    野菜 2,900百万円    果実 1,802百万円  
 花卉 128百万円    その他 2,002百万円

【米・麦】 ・実需者との結び付きの強化と取引先との関係づくり    ・米の消費拡大と直接販売の強化

【園芸品目】 ・重点取引市場との連携による青果物の販売力強化    ・農産物の付加価値向上

【直売関係】 ・農産物直売所の魅力向上    ・農産物の買取販売の強化    ・新規出荷会員の確保



## 営農指導体制の充実

### ● TAC指導体制の充実

- ・ 営農センター、本所、関係機関との連携強化による指導体制の充実
- ・ 新任TAC指導員の確保・育成



## 農畜産物の生産振興

### ● 米の安定多収・省力化生産技術の確立と普及・拡大 高温耐性品種の調査・研究

- ・ GIS地図システムとセンシング技術活用による安定多収技術の確立と普及拡大
- ・ 省力安定生産技術体系の確立と普及拡大
- ・ 関係機関と連携したヒノヒカリに代わる高温耐性品種の調査・研究

### ● 麦類の高品質生産対策

- ・ JAアグリ岡山、グリーンファーム岡山との連携による麦類の高品質安定生産に向けた生産技術の確立と普及・拡大

### ● 園芸品目の生産拡大と産地の活性化

- ・ 園芸産地（青果物生産者組織など）における生産面積の維持・拡大
- ・ 新規就農者の受入体制の整備と新規就農者の確保・育成

### ● 和牛繁殖経営の安定

- ・ 関係機関と連携し、子牛の生産技術向上による「おかやま四ツ☆子牛」の出荷率の向上

### ● 大規模農家の法人化支援と集落営農組織の運営支援

- ・ 関係機関と連携し、経営分析による大規模農家の法人化に向けた経営管理支援
- ・ 関係機関と連携した集落営農組織の運営支援

# 挑戦し続け、満足のいくイチジクを作り 産地を地域のみんなで盛り上げたい

## 木村 昇さん

福田地区：イチジク・黒大豆農家

「きむら のぼる」

昭和11年生まれ。福田いちじく部会部会長 福田地区黒大豆生産者組合組合長。イチジクの樹99本、黒大豆(13畝)、水稲(1畝)を経営。息子夫婦と3人家族。趣味は民謡。座右の銘は「和」。



8月2日、福田地区の木村昇さんにお話を伺いました。

### 父から農業を受け継ぐ

―就農したきっかけは

はじめは父の農業を手伝いながら、イチ草や米を作っていました。父が亡くなってからは農家を引き継ぎ、勤め先を退職するまで兼業農家として頑張っていました。

―農業を始めてからは

イチ草は、昭和60年ごろまで生産していましたが、作業が大変だった



農業について思いを話す木村さん

たことや、開墾地の相場が低いことを理由に作付けをやめました。その後退職するまでは、水稲一本でした。

退職後は、福田地区の水田転作物として、イチジクと黒大豆の栽培をはじめました。

イチジクは、市場や直売所、女性部が手掛けるジャムへの提供、学校給食のジャムとしても提供しています。女性部に提供しているイチジクは、よくも悪くも感想を教えてくださいるのでありがたいですね。

―楽しいことは

収穫作業が楽しく、息子夫婦とともに家族一丸となって頑張っています。他所に負けないくらいよいものが出来るよう食味にはこだわり、ある程度熟れているものを選び、選んで収穫しています。ぜひ、私がつ作ったイチジクを食べてもらえると、とてもうれしいです。

また、出荷は10月下旬までですが、11月下旬から収穫できるイチジクは皮が少し硬くなるため、長男の嫁がコンポート煮にしてくれています。このコンポートがとてもおいしく、毎年の楽しみにしています。

―栽培上のこだわり

栽培に関する情報を収集し、数年試してみても効果を感じたことは実践し、取捨選択していきます。労力と土壌のバランスを考え、加味しながら混合堆肥を使用し、生産者同士で情報交換しながら試行錯誤しています。

### 長く続いていく産地として 盛り上げていきたい

―今後の抱負は

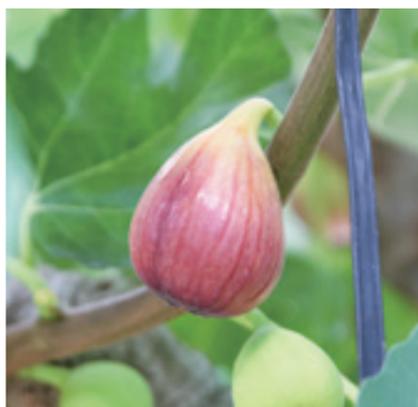
天候に左右され思うようにいかないこともあります。これまで通り、満足のいくイチジクをつくりていきたいです。できることなら、もう一度イチジクの樹の場所を変え、挑戦してみたいと思います。

現在も部会長を務めているので、若い人に受け継ぎ、長く続いていく産地として地域のみんなで盛り上げていきたいです。

聞き手：JA岡山広報担当



収穫適期を見逃さず収穫します



今年もよいものが出来ています



きれいに管理されたほ場

## 野菜

豆類の播種時期がやってきました



営農部指導課 祇園 将人

### ●秋播きの豆類について

秋には色々な豆が播種時期を迎えます。薄いさやのサヤエンドウ、さやごと食べれるスナップエンドウ、中の実だけ食べる実エンドウ(グリーンピース)やそら豆等が播種時期となります。これらの豆は、幼苗は寒さに強いが苗が大きくなると寒さに弱く、厳寒期に凍害を受けやすいため、露地栽培では早播きはせず、10月下旬〜11月中旬に播種しましょう。ただし、収穫中に初夏になり気温が上がると(25℃以上)、枯れあがってしまうので極端な遅播きはしないようにしましょう。

今号ではエンドウの栽培について解説させていただきます。エンドウにはつる有種とつる無種があります。つる有種は高さ150cm以上伸びるので栽培には長い支柱の設置が必要ですが、収穫は下から始まるので途中から立ったまま収穫ができます。つる無種は60cm程度し

## 花き



営農部指導課 中川 雄一

ミヤコワスレは、今が植え替えどき

### ミヤコワスレの栽培

「都忘れ」といえば初夏に咲く可憐な紫の小輪花1株をお持ちの方は株分け・植え替えの適期です。名前の由来は複数あるようですが、いずれも「都を忘れるほど美しい」花ということからだそうです。花言葉は「しばしの別れ」「穏やかさ」など。

### ●生育特性

ミヤコワスレは日本産の宿根草、ミヤマヨメナ(キク科シオン属)を改良して生まれた園芸種のことです。生育特性は変わっていません。原種は淡青色の花ですが、代表的な「江戸紫」の他「浜乙女」「桃山」「青空」など、紫やピンクの花が親しまれています。

やや標高の高いところの自生が多く、低温には強い方ですが、夏の高温や強光には弱いので注意が必要です。夏越しには樹林下のような環境が向いているくらいですから、日当たりがよくないところの鉢植えや花壇に利用することもできます。また、水分を好み、一年を通じて土壌の乾燥は禁物です(排水不良はいけません)。土壌酸度は5〜6とやや酸性を好みます。資料によって陽当たりと排水のよい場所を好むとされていますが、岡山県南では、林間の

か伸びないので、短めな支柱で十分ですが収穫はずっと中腰での作業になります。

### ●畑の準備

まず、豆類は連作を嫌います。必ず3〜5年は同じ所で栽培するのを避けてください。エンドウは水はけ・日当たりのよいほ場を好みます。播種の約2週間前までに10平方メートルあたり堆肥約20kg、石灰1kg、化成肥料(JA岡山専用有機肥料等、成分10-7-7)を0.4kg施用し、よく耕します。つる有種では2条播き(資料1)、つる無種では1条播き(資料2)で1穴に2〜3粒播種し、約1.5kg覆土します。

### ●当面の管理

草丈が7cm程度になると生育が良好な2株を残して間引きします。その後、株元に堆肥や敷きわらを施用します。冬季でも降雨が見込めず乾燥が続くようなら暖かい日の午前中に灌水を行います。適期に播種したもので直接霜があたりと傷む場合があります。年末

には畝の両端に支柱を立て、紐を通してわらをぶら下げる等の防寒対策を行います。

### ●支柱・追肥

つる有種では、つるが伸び始めるころまでに支柱を立てます。2階程度の支柱を選び、ネットや紐を横に張ります。紐の場合は、わらを垂らすとつるが巻きやすくなります(資料3)。スナップエンドウや実エンドウを栽培している場合は、細い支柱では倒れやすいので太い支柱を選んだり支柱を立てる間隔を狭くするなどして補強しましょう。

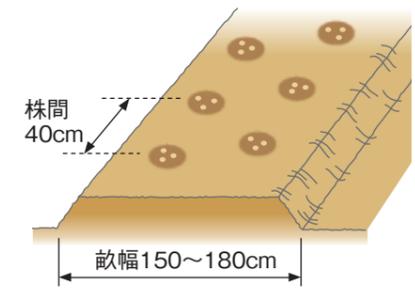
### ●追肥

追肥は開花が始まるころとその3週間後に2回行います。施用量は、10平方メートルあたり化成肥料(JA岡山専用有機肥料等)を1回あたり0.3kg施用します。

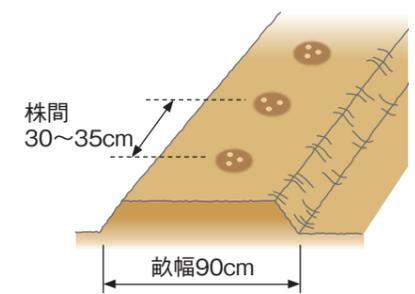
### ●防除

エンドウに発生しやすい主な病害虫は、アブラムシ、ハモグリバエ、うどんこ病です。病害虫は春先の暖かくなったころから発生しやすくなるので、注意しましょう。

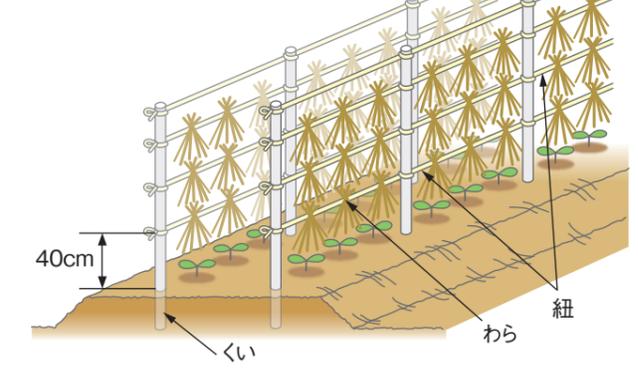
### 資料1 つる有種



### 資料2 つる無種



### 資料3 支柱の立て方



豆類は農業登録が豆類(種実)と豆類(未成熟)に分かれています。(種実)とは乾燥させて硬い豆になって食べられるもの、(未成熟)とは若く柔らかいうちに食べるものをいいます。ここで紹介したサヤエンドウ・スナップエンドウ、実エンドウは(未成熟)の小豆やナタメなど(種実)登録になります。間違わないように気を付けましょう。

●収穫  
サヤエンドウは実が少しふくらみ始めたころ、スナップエンドウは実が十分ふくらんでさやが鮮やかな緑色になったころ、実エンドウは実が十分にふくらみ、さやにしわが表れ始めたころに収穫します。どの豆も収穫が遅れると硬くなってしまふので取り遅れないよう、こまめに収穫しましょう。

### 資料4 山間の道端に咲くミヤマヨメナ



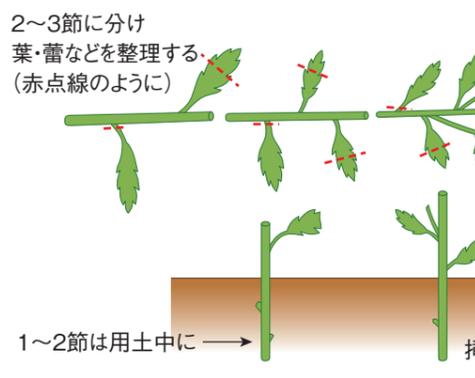
紫やピンクのミヤコワスレ



### 資料5 株分け



### 資料6 挿し穂調整、挿し芽



木漏れ日がいりから射す腐葉土混じりのところに生えているイメージで栽培すると安全でしょう。(資料4は吉備中央町の林間に自生するミヤマヨメナの開花です。)

●増やし方  
①株分け  
地植えなら条件がよければ植えたままでもよく開花します。それでも5年に1度くらい、鉢植えなら2〜3年に1度株分けしてやることで、増殖すると同時に開花をよくすることが出来ます。春に伸びて開花した茎はやがて枯れます。その株元に数個の脇芽がでますが、これは茎を伸ばさず地際に葉が茂った状態で冬を迎えます。株分けの適期は5〜6月と9月下旬〜10月とされますが、高温の夏越しが難しいので、涼しくなった秋がおすすです。充実した芽は葉数も根も多くなっていますから、清潔なよく切れるハサミなどを使い、2〜3芽毎に分けやすいところで切り分

けます(資料5)。この時、できるだけ根を傷めないように根先のからんだ部分をほぐし古い土を落とします。用土は鉢植えなら赤玉土(できれば硬質)に、地植えなら床土に腐葉土を混ぜて通気と保水性を安定させ、少量の緩効性肥料を混ぜておきます(多肥に弱い品目です)。切り分けた株は、株元がちようど土にはいり、芽が埋まらないように植え付け、タツプリ灌水します。地植えの株間は10cm程度です。

②挿し芽(資料6)  
挿し芽から養成した株は開花まで期間がかかりますが、たくさん増やすことが出来ます。時期は4〜5月、花が上がった茎をそのままの状態で挿し穂として使えます。できるだけしっかりと開花茎を選び、一旦吸水させて、花首から先を切り捨て、その下を3節ずつほどに切り分け、大きい葉は半分くらいに切ります。平鉢に清潔な細粒鹿沼土などを入れ、灌水後、水が粗乾きしたら箸などで穴を開けて挿していきます。1〜2

節は土にはいるようにし、その部分は葉を取り除いておきます。挿し穂後充分灌水し、挿し穂がいくらか傾いても動かしません。置き場所は直射光の当たらない明るいところで、寒冷紗被覆し、初期は挿し穂の上に新聞紙をかけて用土が乾きにくくして、水やりはできるだけ我慢します(乾きそうなら霧吹きなどで軽く葉水をかけ、用土が乾きだしたら晴天の午前中に灌水します)。令和2年7月号のジンチヨウゲの挿し木などで紹介した密閉挿しでもかまいません。

4〜5週間したら発根するので、ポリポットなどに植え替えて秋まで管理します。

ミヤコワスレは花瓶の中で発根することもあり、花や蕾を切り取り、葉を半分ほどにして水に活け、水を清潔に管理して、発根したものを鉢上げすることも出来ます。

お知らせ

ご購入品注文ならびに、令和5年産水稻種子予約注文取りまとめについてのチラシを広報誌「ぱれっと」の中に折り込んでおりますのでご利用ください。

- 2022年10月号チラシ掲載商品
- ・令和4年度玉ねぎ苗及び資材
  - ・令和5年産水稻用土づくり肥料
  - ・巷で噂の野菜種子集めました!
  - ・今月のおすすめ商品
  - ・実印・銀行印・認印注文

※写真はイメージです



直売所委託輸送について

はなやか南店の閉店に伴い、令和4年7月1日より備南営農センター・藤田営農センターを拠点としてはなやか中央店までのJA集荷による委託輸送を開始しています。ご利用の詳細は下記までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>  
営農部 直売課 086-225-3266



「税務相談会」のご案内

相続や贈与、所得に関する事など、暮らしの中のさまざまな税金について、専門の税理士が相談におこたえます。

- 受付時間…10:00~15:30
  - 相談時間…お一人さま約30分(1回)
  - 相談費用…お一人さま1,000円(1回)
  - 申込方法…各支所で相談依頼書にてお申し込みください
  - 問い合わせ…各支所まで
  - 開催日程…10月20日(木) 福田支所
  - 21日(金) 上南支所
  - 申込期日…開催日の5日前まで
- ただし、JA岡山青色申告会の会員の方は無料

果樹

この秋に、来年に向けて対策を!



営農部指導課 武田 祐一

今年の果樹は、連日の猛暑による高温乾燥、干ばつ、降雨等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けていると思われまふ。この秋に施肥や灌水など土づくりを徹底して、葉がついている内に貯蔵養分の蓄積を促し、来年の初期生育に繋げていきましょう。

●果樹の基肥について

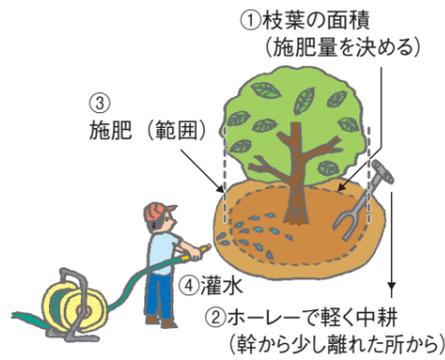
基肥には窒素、リン酸、カリの3要素が入った肥料を施し、必要に応じて石灰やマグネシウム、その他微量元素(マンガン、鉄など)を施しましょう。施肥後は軽く土と混和して、灌水を行い、肥料成分と土をよく馴染ませます(資料7)。

果樹品目別の基肥施肥量の目安を参考に(資料8)。土づくりにご活用ください(資料8)。樹勢(葉色や徒長枝の発生数などを考慮する)や今年の収量、土質などを考慮して弱っているような樹は施肥量を1~2割程度加減しましょう。

●土づくりの方法

冒頭でも述べましたが今年も連日の猛暑、高温乾燥、干ばつ等の影響で樹体はかなりのダメージを受けています。株元の太い根を断根するとさらに衰弱するので、株元から1~2分離れた細根が多いところを土壌改良します。部分深耕や中耕を行うと根を切断することになります。細根を切るこ

資料7 施肥の範囲と手順



堆肥の施用が大変な場合は、こぼし堆肥を代用することで重労働の作業が省力化できます。ただし、1~3年生の育成中の樹では、通常の堆肥を施用する方が、根づ

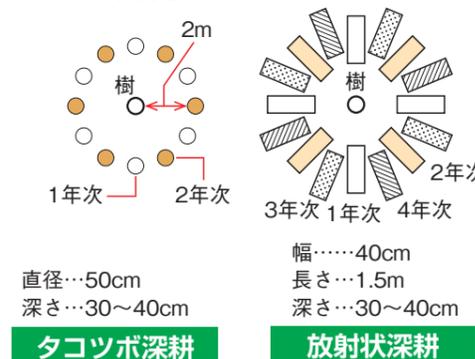
とにより、新しい根が発生し樹勢回復を図ることが出来ます。また、固まった土壌を堆肥や土壌改良資材と一緒に耕すことで通気性、排水性、保水性の改善に繋がります。部分深耕を極端に行くと根量が一時的に減少し、樹勢が弱まる原因となることありまふので樹冠面積の1~2割程度に留めて行い、数年かけて実施しましょう。タコツボ深耕と放射状深耕の事例を(資料9)に示しておきまふので、参考にしてください。注意して欲しいことは、深耕した時に土壌改良資材・堆肥と掘土を混和し、乾燥しないうちに埋め戻して灌水することです。そして県南では土壌改良の適期は10月中であり、遅くても11月上旬ごろまでには行いましょう(地温が下がり過ぎると傷口も癒えないし、新根が発生しにくいため)。土づくりが遅くなり過ぎると新根が発生せず初期生育の低下や、枯れ込みに繋がるため注意が必要(資料10)。

資料8 果樹品目別基肥一覧表

果樹の種類	基肥		追肥		窒素成分量(g)		
	時期(月)	施用割合(%)	時期(月)	施用割合(%)	1樹当たり	成木	(10m <sup>2</sup> 当たり)
桃	10~11	80	8~9中	20	100	200	100~120
ブドウ	10~11	80	収穫後(9)	20	100	300	80~140
梨	11~12	70~80	6,7,9	20~30	100	200	180
柿	12	70~80	6下~7上	20~30	150	200	120~170
梅	11~12	80	7	20	100	150	150
スモモ	10~11	80	9	20	100	200	100~120
イチジク	11~12	60	6上,8上	40	50	80	150
キウイ	10~11	70	3,6,9	30	100	350	180
栗	11~12	60	7上,9下	40	50	75	200
リンゴ	11~12	80	収穫後(10)	20	100	200	180
ピワ	9上	60	2中,6上	40	50	100	250
ミカン類	3~4上	60	6上,11上	40	50	100	200

くりや細根を増やすという観点で効果的だと思いまふし、幼木からこぼし堆肥をまいて省力するのが一番いい方法だと思われまふ。また、堆肥といつてもいろいろありますから、特に注意するべきは安価な堆肥だと思いまふ。なぜかというところからいけば、安価な堆肥は、放置できる場所があれば、1年~半年放置して、余分な肥料成分を雨ざらしにして抜いてから使用する癖をつけまふしょう。そうすることで、根が肥あたりしなくなるといふ、完全堆肥に近づいていくからです。完全堆肥とは、有機物の分解が進み、くさい臭いがなく、色が黒褐色ないし黒色に変化し、水分が蒸発して、手で触るとフカフカした感触の状態になったものをいいます。

資料9 深耕方法



資料10 土づくり時期

断根時期	秋根の発根状況	発根後の秋根の状態(冬)	評価
10月上旬まで	・太い直根が伸長 ・翌春までに枯死 ・遅伸びを誘発		△
10月上旬~11月中旬(地温13℃以上)	・細い秋根の伸長 ・休眠まで働く ・翌春早く発根		◎
12月上旬	・カルス化のみ ・翌春は新根が出る	カルス形成のみ	○
12月中旬以降	・枯れ込み ・初期生育低下	カルス形成なし 枯れ込む	×



## 1つで満腹！黒豆ご飯

### 材料 (3個分)

米……………1合  
 水…………… 215ml  
 黒豆 (吸水前)…………… 30g  
 黒ごま…………… 小さじ1弱

### <調味料>

酒…………… 大さじ 1/2  
 塩 (A)……………少々  
 酢……………少々  
 塩 (B)…………… 少々

- ① 黒豆と水を合わせ、一晩漬けておく (8時間ほど)。
- ② 炊飯器に米、酒、塩 (A)、酢、黒豆を漬けておいた水を入れる。  
その上に黒豆を散らして炊飯する。
- ③ 黒ごまと塩 (B) を混ぜる。
- ④ 炊き上がったら、③ を加えさっくり混ぜて握る。

### Point!

岡山の特産品である黒豆を使用。  
 火を使わず炊飯器に入れるだけで作ることができる  
 お手軽レシピ。



## 桜の馬場樋門

今回のあぐろグラムでは岡山市南区藤田の桜の馬場樋門について紹介いたします。

明治37年に藤田の干拓で児島湾堤防に排水用として造られてから、築造時の姿を良好にとどめている樋門です。イギリス積みめのれんがと花こう岩を組み合わせたアーチ型の優雅な外観が特徴です。もともとは、岡山市南区藤田の妹尾川沿いにはありましたが、国道30号拡幅工事で現地から撤去され、平成14年に藤田スポーツ広場へ移設保存されました。

編集担当 弘末 彩香



各種媒体で情報発信



オンラインショップ  
 はなやか  
 花  
 オンライン



Instagram



Twitter



YouTube

